令和８年度 全国学力・学習状況調査結果及び分析・対策　　【松江市立　島根中学校　】

(1)学力調査結果から見られた傾向

教科		分析(成果○，課題●)	改善策(・)
国語	成果	○「文章の構成」についての問題の正答率が94%で、全国平均を25%も上回った。 ○全体的に無解答率が低い。	・語句の理解を、１年生のときから定期テストや基礎学力テストで何度もやってきたのが結果に繋がった。小学校高学年の漢字について、引き続き指導を強化していく。 ・「白紙で出さない」「わかりません」ではなく、途中までででもいいから何らかの解答をするよう指導してきたので、それを継続する。 ・途中までの解答を完成させるための練習を強化していく。
	課題	●問題文の中から、説明したものとして適切なものを選択する問題の正答率がかなり低い。多くの資料を整理し、検討する活動が苦手と推測される。 ●普段より他者へ思いを伝えたり、集団の中で考えを述べたりすることが苦手という実態が「表現を用いて伝える問題」の正答率が低い結果に出ている。	
数学	成果	○正の数と負の数を用いて変化や状況を表す問題の正答率が100%、同類項の意味の理解度が89%と全国平均を上回り、基礎基本の内容は理解している。	・関数領域とデータの活用領域では、学習内容を再確認する時間を設ける。 ・式や数学用語を使って、記述式で数学的に説明する機会を増やす(そのために、基礎基本内容の定着も強化する)。
	課題	●関数の特徴や数学用語を理解していない。(反比例、累積度数、四分位数など) ●統合的・発展的に考え、事象の特徴を数学的表現を用いて説明する問題を苦手としている。	
英語(成果または課題で話すことについて触れること)	成果	○「文章の読み取り」について、正答率が100%を記録する問題が3つあった。 ○「説明や理由を書く」問題についても、全国平均を上回る力が結果として出ている。 ○必要な情報を読み取る力が高いという結果が出ている。	・日常の授業の中で、お互いにコミュニケーションをとることが、「情報の読み取る力」に繋がっている。引き続き指導を強化していく。 ・単なる文法項目の練習に留まる活動をするのではなく、より目的場面状況設定を意識した言語活動を行っていく。
	課題	●「言語の動きなどの知識を、聞くことによって実際のコミュニケーションに活用する力」は、やや低い。	

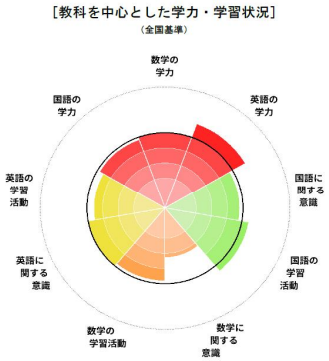
(2)質問紙調査から見られた傾向

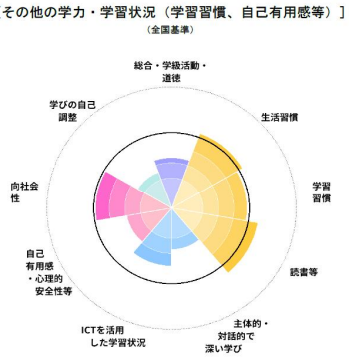
		分析(成果○:強み/伸ばしたい点，課題●:弱み)	改善策(・)
質問紙	成果	○1，2年生時より英語の授業で生徒同士で「英語で回答したり・意見を述べ合ったりする活動」が継続している。英語の授業で学習したことが社会で役に立つと答えた生徒が100%だった。 ○国語の授業で学習したことが社会で役に立つと答えた生徒が94.5%で、全国平均より24%も高い。 ○「将来、人の役に立ちたい」と考える生徒の割合が100%であった。	・学校図書館を活用した授業の促進を図る。 ・授業に関連する本の紹介や、ブックトーク、ストーリーテリングなど、読書に繋がるような活動を積極的に取り入れる。 ・総合的な学習の時間を利用し、地域貢献活動を行う。 （数年前から継続して実施している）
	課題	●「学校生活をより良くしていこうとする意欲」や、「お互いの良さを認め合う態度」を問う項目の割合が、全国平均を30%以上下回っている。 ●「わからないこと」や「詳しく知りたいこと」があっても、自ら動いたり、工夫したりすることをしない生徒の割合が44%で、これは全国平均より22%も多い。	

(3)その他、今後校内研究等学校全体で特に力を入れて取り組むこと

学校全体	・考えを深めたり、新たな考えに気づいたりすることができるような話合い活動を、引き続き積極的に取り入れて授業を行う。 ・図書館の「学び方指導体系表」に基づいた授業を、国語や総合的な学習の時間だけでなく、多様な教科で計画・実施する。

(4)学力・学習状況調査結果チャート(破線は全国平均)





【受検者数】

18 名

※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示。

(5)質問紙調査の結果より(学力との相関が指摘されているものや、教育委員会として注目しているものを挙げています。)

